

中華人民共和国科学技術部来訪議事録(案)

2019年5月13日
日中技術交流センター
代表幹事 熊澤壽人

1. 日時 5月9日(木曜日) 9:15-10:30
2. 場所 公益社団法人日本技術士会 2F 会議室
3. 来訪者

(1) 訪日団メンバー

- ① 苗少波 中国科技部 秘書長
- ② 易凡平 中国科技部外国專家服務司 責任者
- ③ 炊海春 中国科技部外国專家服務司專家一処 処長
- ④ 初国剛 中国科技部弁公庁秘書処 副処長
- ⑤ 鄭心舟 中国科技部外国專家服務司交流処 副主任科員(欠席)
- ⑥ 張英哲 中国科技部外国專家服務司專家一処 副主任科員

(2) 同行者

- ① 夏鳴九 中国駐日本国大使館 公使参事官(欠席)
- ② 阮湘平 中国駐日本国大使館 公使参事官
- ③ 呉 松 中国駐日本国大使館 一等書記官
- ④ 鄭馬華 中国国際人材交流協会日本国駐在事務所 総代表
- ⑤ 曾 超 中国国際人材交流協会日本国駐在事務所 代表(通訳)

4. 日本技術士会側の出席者

(1) 日本技術士会専務理事

(2) 海外活動支援委員会

- ① 松井武久委員長
- ② 鈴木陸夫副委員長
- ③ 杉本昌明副委員長

(3) 日中技術交流センター

- ① 熊澤壽人代表幹事・人材交流委員長
- ② 長友正治顧問(欠席)
- ③ 佐藤千秋監査(元代表幹事)(欠席)
- ④ 鈴木陸夫 幹事
- ⑤ 顧静幹事(通訳)

5. 日本シルバーボランティアズ協会 荻野健一理事

6. 交流内容

(1) 技術士会専務理事と苗秘書長との会見

(2) 中国科学部と国家外国專家局統一機構職能の説明と外国專家服務司の情況紹介

(3) 日本技術士会が中国向けの専門家派遣活動の紹介

(4) 双方の協力関係を強化するために、人材交流・専門家派遣・知的交流・科学技術協力などについて意見交換

7. 内容概略

(1) 専務理事挨拶

日本技術士会と中国の交流は長く、私も毎年中国を訪問し中国との交流を深めて行くことが重要と考えている。今回を機会に更に交流を深めたい。

(2) 苗秘書長挨拶

中国政府は科学技術部と国家外国專家局が一つになり、両者の強みを生かし科学技術分野を更に強化させたい。日本技術士会とシルバーボランティアズ協会とはますます交流を深めたい。

(3) 日本技術士会が中国向けの専門家派遣活動の紹介(熊澤)

技術士会と国家外国專家局との交流は2002年の上田稔会長と張建国当時の副局長から始まり2008年、2016年と続き現在に至っている。これに基づき、2つの方法で技術士を紹介している。①企業の依頼に指導を希望する技術士を紹介する。②複数企業と複数技術士を集めて面談し指導する技術士を決める。②の効率が良い。中国語と日本語が堪能で技術士をよく知るコーディネーターが必要である。日中技術交流センターでは徐々に実

績が上っているが毎年 10 名程度で未だ少ない。

(4) 易責任者の発言

①2021 年に中長期科学的なプログラムを作成予定。

外国専門家司が企画するので、中国発展企画について関連専門家の意見を聞きたい。課題を決めてセミナーを開く時は、協力経験の永い日本技術士会や日本シルバークラウンティアズの方々に参加してもらいたい。

②科学技術部と専門家局が統合し、科学技術部の機能が強化された。中国の基礎研究を強化するため職業教育を実施する。基礎研究の専門家プロジェクトに資金のサポートを行う。

(5) 双方の協力関係を強化のため意見交換

①技術士との交流は技術指導だけでなく、講演、教育、情報交換の機会が有ると良い（熊澤）

②海外活動支援委員会では多くの指導依頼を受けるが去年は指導した人が居ない。これは、依頼書の書き方に不備があるのではないかと考えており記入方法を変えたが、内容が変わっていないようだ。（松井）

③依頼案件は技術士個人では対応できない案件も見受けられる。複数の技術士で対応できるような仕組みも必要ではないか。（松井）

④新しい技術に対応するためには、中国と日本の企業と企業での契約により指導をする仕組みも必要と考える。（松井）

⑤技術士で対応できないものは、経済産業省と相談するのが良い（松井）

⑥新しい技術は日本の法律で規制されているものもあるので対応が困難な案件も発生する。（松井）

科学技術部の皆さん多忙のため時間が短く、お互いの状況を報告し現状を理解しあえることができた。今後機会を作りさらに掘り下げて話し合い更に深い交流につなげてゆきたい。



以上